

第3期 NISTEP 定点調査の質問一覧(自由記述質問を除く)

2017/1/25

科学技術・学術政策研究所

Part I 大学・公的研究機関における研究人材の状況 (14問)	
【若手研究者(39歳くらいまでのポストドクター、研究員、助教、准教授など、博士課程学生は除く)の状況 (3問)】	
問 1-1	若手研究者(博士課程学生は除く)に自立と活躍の機会を与えるための環境の整備は十分だと思いますか。 [環境の整備として、雇用制度、新規採用時に研究を立ち上げる際のスタートアップ資金の提供等をお考えください]
問 1-2	自立的に研究開発を実施している若手研究者の数は十分だと思いますか。 [例:自ら研究プロジェクトを立ち上げ、その責任者として活動している等]
<input checked="" type="radio"/> 問 1-3	実績を積んだ若手研究者のための任期を付さないポスト拡充に向けた組織としての取組は十分だと思いますか。 [例:若手研究者の安定雇用財源を生み出すための、シニア研究者(定年前後の研究者)に対する年俸制等の導入や外部資金による任期付雇用への転換促進等]
【研究者を目指す若手人材の育成の状況 (5問)】	
問 1-4	現状として、望ましい能力を持つ人材が、博士課程後期を目指していると思いますか。
問 1-5	望ましい能力を持つ人材が博士課程後期を目指すための環境の整備は十分だと思いますか。 [例:博士課程後期在学者への経済的支援、飛び級・早期卒業制度、社会人・留学生の受入体制等]
問 1-6	博士号取得者がアカデミックな研究職以外の進路も含む多様なキャリアパスを選択できる環境の整備に向けての取組は十分だと思いますか。 [例:博士号取得者本人や研究指導者の意識改革、博士課程後期教育への産業界の参画促進等]
<input checked="" type="radio"/> 問 1-7	学部学生に社会的課題への気づきや研究への動機づけを与えるための教育は十分に行われていると思いますか。 [例:アクティブラーニング(発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、情報活用能力の育成等)、科学技術や学びの魅力を実感できるカリキュラム等]
<input checked="" type="radio"/> 問 1-8	博士課程学生が、自ら課題や研究テーマを見だし、最後までやり抜くことができるような指導が十分に行われていると思いますか。
【女性研究者の状況 (3問)】	
問 1-9	多様な研究者の確保という観点から、女性研究者の数は十分だと思いますか。
問 1-10	より多くの女性研究者が活躍するための環境の改善(ライフステージに応じた支援等)は十分だと思いますか。
問 1-11	より多くの女性研究者が活躍するための採用・昇進等の人事システムの工夫は十分だと思いますか。
【外国人研究者の状況 (1問)】	
問 1-12	優秀な外国人研究者を受け入れ、定着させるための取組は十分だと思いますか。 [例:研究立ち上げへの支援、能力に応じた給与、家族へのサポート、物品購入にかかる手続、組織運営にかかる規定や通知の英語化等]
【研究者の業績評価の状況 (2問)】	
問 1-13	研究者の業績評価において、論文のみでなく様々な観点からの評価が十分に行われていると思いますか。 [例:教育、社会貢献、産学官連携活動、海外経験、学際的・分野融合的な研究への取組等]
問 1-14	業績評価の結果を踏まえた研究者への処遇(給与への反映、研究環境の改善、適材適所の人材配置、サバティカルの付与等)が十分に行われていると思いますか。

新規質問項目は○で表示

Part II 研究環境及び研究資金の状況 (10問)	
【研究環境の状況 (3問)】	
問 2-1	研究開発にかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いますか。 [基盤的経費として、教員や職員の人件費及び機関が教員や研究員に経常的に配分する研究費をお考えください。個人が外部から獲得する研究費(科学研究費助成事業(科研費)、JST・AMED・NEDOからの研究資金等)は除きます。]
問 2-2	研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。
問 2-3	研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。
【研究施設・設備の状況 (2問)】	
問 2-4	研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。
<input type="radio"/> 問 2-5	組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。
【知的基盤・情報基盤及び研究成果やデータの公開・共有の状況 (3問)】	
問 2-6	我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。 [知的基盤: 計量標準、生物遺伝資源、関連するデータベース等 研究情報基盤: 論文等の研究情報へのアクセス、研究情報ネットワーク、情報システム資源のクラウド化による集約化、セキュリティ機能の強化、大学図書館等]
問 2-7	公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)はどうですか。
<input type="radio"/> 問 2-8	公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。 [ここでの取組として、論文のオープンアクセス化、研究データを公開・共有するためのプラットフォーム構築、研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブ付与等をお考えください。]
【科学技術予算等の状況 (2問)】	
問 2-9	科学技術に関する政府予算は、日本が現在おこなわれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。 [2016年度の科学技術関係経費(当初) 約3.5兆円 2016年度の国の予算(一般会計、当初)に占める割合 約3.6% 2014年度の科学技術関係経費(当初)のGDP比率 約0.7%]
問 2-10	政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。
Part III 学術研究・基礎研究と研究費マネジメントの状況 (8問)	
【学術研究・基礎研究の状況 (5問)】	
<input type="radio"/> 問 3-1	研究者の内在的動機に基づく研究(学術研究)は、現代的な要請(挑戦性、総合性、融合性及び国際性)に十分に答えるように行われていると思いますか。 [学術研究への現代的要請についてはこちら(リンク)をご覧ください。]
<input type="radio"/> 問 3-2	科学研究費助成事業は、研究者が新たな課題を積極的に探索し、挑戦することに十分に寄与していると思いますか。
問 3-3	我が国において、将来的なイノベーションの源としての基礎研究の多様性は、十分に確保されていると思いますか。
問 3-4	我が国の基礎研究について、国際的に突出した成果が十分に生み出されていると思いますか。
問 3-5	基礎研究をはじめとする我が国の研究開発の成果は、イノベーションに十分につながっていると思いますか。
【研究費マネジメントの状況 (3問)】	
問 3-6	資金配分機関(JST・AMED・NEDO等)は、将来有望な研究開発テーマの発掘や戦略的な資金配分等、それぞれの役割に応じた機能を十分に果たしていると思いますか。 [例:資金配分機関の役割に応じたPD(プログラム・ディレクター)等の目利き、挑戦的(チャレンジング)な研究開発を奨励する評価の実施、客観的根拠に立脚した研究開発目標の策定等]
<input type="radio"/> 問 3-7	政府の公募型研究費やその体系は、優れた研究に対して、研究の発展段階に応じ、継続性を保ちつつ支援することが十分にできていると思いますか。 [例:異なる公募型研究費の橋渡し、画期的だがリスクが高い研究について進捗の段階ごとに成果を確認しつつ発展させるステージゲート制、中小企業技術革新制度(SBIR制度)等]
<input type="radio"/> 問 3-8	政府の公募型研究費において、申請時の申請者や審査員の負担及び課題実施に際しての手続・評価等にかかる研究者の負担を低減するような取組が十分に行われていると思いますか。

新規質問項目は○で表示

Part IV 産学官連携とイノベーション政策の状況 (18問)	
【産学官の知識移転や新たな価値創出の状況 (5問)】	
<input type="radio"/> 問 4-1	我が国の大学や公的研究機関は、民間企業との連携・協働を通じて、新たな価値の創出を十分に行っていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 4-2	我が国の大学や公的研究機関と民間企業が、組織的な連携を行うための取組が十分に行われていると思いますか。 [例: 課題の共有、組織的な体制整備、大学や公的研究機関内への企業研究所の設置等]
<input type="radio"/> 問 4-3	我が国の大学や公的研究機関の研究者は、民間企業との連携・協働を通じて、将来的な研究課題を探索し、自らの研究開発に反映することを十分に行っていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 4-4	我が国の大学や公的研究機関は、ベンチャー企業の設立や事業展開を通じて、知識移転や新たな価値の創出を十分に行っていると思いますか。
問 4-5	我が国の大学や公的研究機関と民間企業との間の人材流動や交流(研究者の転出・転入や受入、クロスポイント等)は、知識移転や新たな知識・価値の創出に十分につながっていると思いますか。
【知的財産マネジメントの状況 (2問)】	
問 4-6	我が国の大学や公的研究機関において、研究開発から得られた知的財産を活用するための知的財産マネジメントは十分に機能していると思いますか。
<input type="radio"/> 問 4-7	我が国の大学や公的研究機関で生み出されたシーズを民間企業で活用する上でのギャップを埋めるための資金(ギャップファンド)が十分に確保されていると思いますか。
【地方創生の状況 (2問)】	
<input type="radio"/> 問 4-8	我が国の大学や公的研究機関は、地域が抱えている課題解決のために、地域ニーズに即した科学技術イノベーション人材の育成に積極的に取り組んでいると思いますか。 [ここでの科学技術イノベーション人材とは、地域課題解決に貢献する研究者や技術者、地域の潜在能力を引き出し事業創出する人材、地域内外の資源や専門家の間を適切につないでいく人材等をお考えください。]
問 4-9	我が国の大学や公的研究機関は、地域が抱えている課題解決のために、地域ニーズに即した研究に積極的に取り組んでいると思いますか。
【科学技術イノベーション人材の育成の状況 (3問)】	
問 4-10	我が国の大学は、社会や産業の変化に応じた研究開発人材(研究者や技術者)の育成を十分に行っていると思いますか。 [例: グローバル化や超スマート社会(様々な分野でサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合された社会)等に対応した研究開発人材の育成]
<input type="radio"/> 問 4-11	我が国の大学において、起業家精神を持った人材を育成するための取組が十分に行われていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 4-12	我が国の大学や公的研究機関で生み出された知の社会実装を、迅速かつ効果的に行うための科学技術イノベーション人材は十分に確保されていると思いますか。 [ここでの科学技術イノベーション人材とは、技術移転、技術経営、知的財産に関して高度な専門性を有する人材、新規事業開発やビジネスモデル変革の経営戦略を担う人材等をお考えください。]
【イノベーションシステムの構築の状況 (6問)】	
問 4-13	イノベーションを促進するために、規制の導入や緩和、制度の充実や新設等の手段が、十分に活用されていると思いますか。
問 4-14	科学技術をもとにしたベンチャー創業への支援(リスクマネーの確保、挑戦や失敗を許容する環境の整備等)は十分だと思いませんか。
問 4-15	科学技術の社会実装に際しての特区制度の活用、実証実験等の先駆的な取組の場の確保が十分に行われていると思いますか。
問 4-16	金融財政支援(政府調達、補助金、税制優遇等)を通じた、市場の創出・形成に対する国の取組状況は十分だと思いませんか。
問 4-17	産学官が連携して、国際標準化機構(ISO)、国際電気通信連合(ITU)等の標準化機関へ国際標準を提案し、世界をリードするような体制の整備が十分に行われていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 4-18	急速に進展する人工知能技術や IoT 技術(インターネットを媒介して様々な情報が「もの」とつながる技術)を活用した、新しい製品やサービスを創出・普及させる上での環境の整備が十分に行われていると思いますか。 [環境の整備として、研究や社会実装等のためのプラットフォーム整備、規制の緩和、ルールの整備等をお考えください。]

新規質問項目は○で表示

Part V 大学改革と機能強化の状況 (5問)	
【大学経営の状況 (4問)】	
<input type="radio"/> 問 5-1	我が国の大学は、自らの教育研究や経営に関する情報を収集・分析する能力を十分に持っていると思いますか。 [例:IR 部門やリサーチ・アドミニストレーター等の情報収集・分析能力等]
<input type="radio"/> 問 5-2	我が国の大学において、自らの強みや特色を生かし、自己改革を進めていくための学内組織の見直し等が十分に行われていると思いますか。 [例:組織の再編、人事給与システムの改革、教職員間の適切な役割分担、産学連携や学際的・分野融合的な研究への対応、国際的な教育研究環境の構築等]
<input type="radio"/> 問 5-3	我が国の大学において、多様な財源を確保するための取組が十分に行われていると思いますか。 [例:寄付金収入の拡大、民間との共同研究・受託研究の拡大等]
<input type="radio"/> 問 5-4	我が国の大学において、自らの強みや特色を生かし、自己改革を進めていくための研究資金の適切な配分等の取組が十分に行われていると思いますか。 [例:学内の資金配分や間接経費の活用等]
【学長や執行部のリーダーシップの状況 (1問)】	
<input type="radio"/> 問 5-5	我が国の大学における改革や機能強化において、学長や執行部のリーダーシップは十分に発揮されていると思いますか。
Part VI 社会との関係深化と推進機能の強化の状況 (8問)	
【社会との関係の状況 (3問)】	
<input type="radio"/> 問 6-1	研究者の社会リテラシー(研究と社会との関わりについての認識)を向上する取組が十分に行われていると思いますか。 [ここでの取組として、研究成果による社会的インパクトを多面的に評価する仕組み、人文・社会科学及び自然科学の連携等をお考えください。]
<input type="radio"/> 問 6-2	科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 6-3	科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。 [ここでの取組として、多様なステークホルダーを巻き込んだ円卓会議、科学技術に係わる各種市民参画型会議等をお考えください。]
【科学技術外交の状況 (3問)】	
<input type="radio"/> 問 6-4	我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。 [グローバルなニーズとして、エネルギー、資源、食料の確保、自然災害への対応等をお考えください。]
<input type="radio"/> 問 6-5	我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。
<input type="radio"/> 問 6-6	インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。 [ここでの取組として、科学技術協力、若手研究者や産業人材の育成への貢献等をお考えください。]
【政策形成への助言の状況 (1問)】	
<input type="radio"/> 問 6-7	我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。 [科学的助言として、自然災害、気候変動、超高齢化社会、サイバーセキュリティ等への対応に関して、日本学術会議や各種審議会、学会等が行う科学的な助言をお考えください。]
【司令塔機能等の状況 (1問)】	
<input type="radio"/> 問 6-8	基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

新規質問項目は○で表示